

教 育 研 究 業 績 書

2024年 5月 1日

氏名 下 濱 晶 子

研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
1. 西洋美術史	ロココ、ヴァトー、近世・近代美術	
2. 美学	18世紀、服飾美学、経験美学	
3. 工芸史	家具、陶磁器、金工品、染織、デザイン	
4. 日本東洋美術史	絵画、伝統工芸、仏教美術	
5. 美術教育	鑑賞	
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
事 項	年月日	概 要
1 教育方法の実践例 1)「美術館見学」の学生教育指導	平成元年～ 現在に至る	美術館見学。鑑賞方法やみどころを講義し、神戸、京都、大阪などで開催されている展覧会に行きレポート課題を課す。
2)「バーチャルツアー」の教育学生指導	平成11年～ 現在に至る	宝塚大学AHHホールにてフランスのルーヴル美術館などのバーチャル・ツアーなどを実践。実際に現地を訪れたような感動を体験する。
3)放送大学講義 ①西洋美術史	平成4年8月 22・23日	基本的美術用語の説明と、絵画・彫刻を中心に、各時代の様式の解説を古代から近代にいたる広い範囲の中で展開した。
②西洋美術史	平成5年8月 13・14日	文献や年表や展覧会の鑑賞方法を講義し、東京で開催中および秋に予定されている西洋美術の展覧会のみどころを紹介した。
③近代絵画史	平成6年2月 19・20日	ヨーロッパ近代の時代背景や画家の生い立ちなどを紹介しながら、代表的な作品を解説した。
④近代美術の流れ	平成6年8月	ヨーロッパの近代美術の大きな流れを各人が理解できるように、ジャポニスムの影響も指摘しながら作品を鑑賞した。
⑤ヨーロッパ近代美術史	平成7年2月	おもに革命後のフランスの新古典主義・ロマン主義・写実主義の代表的作品を解説した。
⑥ヨーロッパの近代美術	平成8年2月 13・14日	印象主義と後期印象主義を中心に代表的な画家の芸術の特性を理解することをねらいとした。
⑦バロックの美術と工芸	平成9年8月 23・24日	17世紀ヨーロッパの代表的な建築・絵画・彫刻作品のほか、デルフト陶器などの工芸品や当時の服飾を解説した。
⑧ロココの美術	平成10年2月 14・15日	ヴァトーやフラゴナールやシャルダンの油彩画、ラ・トゥールのパステル画、ゲインズバラ等の水彩画について講義した。
⑨新古典主義の美術	平成10年8月 22・23日	19世紀初頭フランスの新古典主義美術を講義し、とくにダヴィッドやアングルらの絵画作品を中心に解説した。
⑩19世紀の美術	平成12年2月 5・6日	ヨーロッパ19世紀の社会的背景を考察した後、代表的な画家や彫刻家の作品を鑑賞した。
⑪後期印象派の芸術	平成13年2月 3・4日	後期印象派の芸術の理解を深めることを目標とし、各画家の作品の特色を検討し、作品鑑賞の参考となるようにした。
⑫世紀末の芸術	平成13年8月 11・12日	フランスやベルギーで発展したアール・ヌーヴォーの建築・家具・工芸・服飾について講義した。

事 項	年月日	概 要
⑬18世紀の美術	平成14年2月 2・3日	18世紀のシノワズリ（中国趣味）を検討しながら、染織やドイツのマイセン、フランスのセーヴルの陶磁器について講義した。
⑭新古典主義の美術	平成14年8月 22・23日	ナポレオンの時代の絵画、建築、彫刻、服飾、セーヴル陶磁器・家具・金工品などの工芸品を解説した。
⑮印象派の美術	平成15年2月 15・16日	印象派以前の美術を紹介したのち、マネの芸術を中心に講義し、印象派の旗揚げとなった第一回印象派展を解説した。
⑯後期印象派の絵画	平成15年8月 9・10日	ヨーロッパ19世紀美術の流れを通覧しつつ、後期印象派のセザンヌ・ゴッホ・ゴーガンらの絵画を中心に講義した。
⑰世紀末芸術の魅力	平成16年2月 14・15日	パリの美術館所蔵のモローやルドンらの作品を中心に、ヨーロッパの世紀末芸術の魅力について解説した。
⑱20世紀の芸術	平成16年8月 7・8日	20世紀初頭のヨーロッパの建築や彫刻、フォーヴィスムや表現主義などの新しい絵画運動、工芸品や服飾を講義した。
⑲イタリア近世の芸術	平成17年2月 19・20日	ルネサンス時代のダ・ヴィンチやラファエロの絵画、ミケランジェロの彫刻や建築について講義した。
⑳バロック美術	平成17年8月 17・18日	スペインのベラスケス、フランドルのリュベンス、オランダのレンブラントやフェルメールの絵画作品を講義した。
㉑フランスのバロック美術	平成18年2月 17・18日	ルイ14世時代のヴェルサイユ宮殿の建築と庭園やラ・トゥールやブッサンやクロード・ロランらの絵画について講義した。
㉒フランスのロココ美術	平成18年8月 17・18日	ルイ15世16世時代の絵画・彫刻・建築のほか家具・金工品などの工芸品を講義した。
㉓印象主義の絵画	平成19年2月 17・18日	第一回印象主義展の意義を解説したあと、マネ、モネ、ドガらの絵画作品の理解を深めることをねらいとした。
㉔後期印象主義の美術	平成19年8月 17・18日	ゴッホやゴーガンの芸術の特徴を確認したあと、スーラやシニャックらの点描主義やボナールらのナビ派について解説した。
㉕世紀末美術	平成20年2月 9・10日	ノルウエーのムンクやオーストリアのクリムトやエゴン・シーレらの絵画や版画を中心に、世紀末美術を講義した。
㉖20世紀の美術	平成20年8月 16・17日	20世紀の新しい絵画運動の中で、フォーヴィスム・キュビズム・抽象主義・構成主義について講義した。
㉗印象主義の美術	平成21年11月 21・22日	パリのオランジェリー美術館所蔵のモネの《睡蓮》を分析した後、ルノワール・シスレー・ピサロらの作品を講義した。
㉘後期印象主義の美術	平成22年10月 30・31日	絵画技法や時代背景や当時のファッションに目を向けながら、後期印象主義が20世紀美術に果たした役割について講義した。
㉙ヨーロッパの世紀末美術	平成23年11月 12・13日	絵画を中心に建築や工芸や彫刻や服飾などのヨーロッパ19世紀末の芸術について講義した。
㉚ルネサンスの芸術	平成24年12月 15・16日	代表的な作家や名作への理解を深めることを目標とし、ルネサンスの絵画・建築・彫刻・工芸作品を解説した。
㉛バロックの美術	平成25年4月 27・28日	イタリアのベルニーニの建築や彫刻、スペインのベラスケス・フランドルのルーベンス・オランダのレンブラントやフェルメールらの絵画作品のほか、デルフト陶器などの工芸品や、当時の服飾や髪型などのファッションを解説した。

事 項	年月日	概 要
③②ヨーロッパ18世紀ロココの美術	平成27年7月 4・5日	ヨーロッパ18世紀、主にフランスのロココ美術について解説した。
③③新古典主義とロマン主義の芸術	平成28年6月 25・26日	フランスの新古典主義とロマン主義の美術について解説した。
③④ロマン主義・写実主義・印象主義	平成29年6月 17・18日	19世紀前半のイギリス・ロマン主義とフランスの写実主義、印象主義について解説した。
③⑤印象派の絵画	平成30年6月 9・10日	19世紀後半のフランスに登場した新しい美術運動「印象派」について解説した。
③⑥世紀末の美術	2019年11月 19・20日	ヨーロッパ各国の19世紀末の絵画のほか、アール・ヌーヴォーの建築や工芸について解説した。
4) 放送大学新聞 ① 面接授業	平成20年1月	放送大学新聞 p. 1 放送大学面接授業での映像機器を使った講義方法の紹介。
5) 宝塚大学大学院 ① 西洋美術史 I・II	平成3年度～ 平成23年度	<単独> スライドやパーポイントや映像で作品を鑑賞しながら、古代から現代までの西洋美術の流れを理解する。
② 美学美術史特論	平成3年度～ 平成23年度	<単独> 活発に討議を行い、実践的に造形芸術への理解を深める。美術に関する深い知識と鑑賞力を身につける。
6) 札幌医科大学 ① 芸術論	平成22年度～ 現在	<単独> 絵画に「描かれた病い」ほか美術作品への理解を深めることを目標とする。
7) 札幌大谷大学短期大学部 ① 美術概論	平成21年度～ 平成24年度	<単独> 工芸と服飾を中心に、美術表現と社会的条件との関係を理解する。
② 日本美術史概論	平成23年度	<単独> 縄文時代から明治時代までの日本美術の流れを概観し日本美術の特質と独自性の理解を深める。
③ デザイン概論	平成24年度	<単独> 西洋のデザインの知識を深める。
8) 札幌大谷大学 ① 芸術文化論 I・II	平成24年度～ 平成30年度	<分担> オムニバス形式により、芸術文化に対する視野を拡げ基礎的な知識を身につける。
② 西洋美術史 I・II	平成24年度～ 平成29年度	<単独> 西洋美術の基礎知識を習得し、通史的な流れを理解する。
③ デザイン概論	平成24年度～ 現在	<単独> デザインの素材の性質と機能を理解する。
④ 美術概論	平成24年度～ 現在	<単独> 各時代の美術理論の知識を習得する。
⑤ 美術鑑賞論	平成28年度～ 平成29年度	<単独> 美術鑑賞の方法を習得する。

事 項	年月日	概 要
⑥ 仏教美術	平成28年度～ 現在	< 単独 > 日本の仏教美術を習得する。
⑦ 西洋美術史 A・B	平成29年度～ 現在	< 単独 > 西洋美術の基礎知識を習得し、通史的な流れを理解する。
⑧ 芸術文化論	2019年度～ 現在	< 分担 > オムニバス形式により、芸術文化に対する視野を拡げ基礎的な知識を身につける。
2 作成した教科書、教材 1) 教材 ①花芸安達流	昭和59年～ 昭和61年	安達流本部で行った講義で配布した美学・美術史の教材。
2) 教科書 ①「ロートレック」	平成5年11月	日本経済新聞社 放送大学、宝塚造形芸術大学の講義で使用。
3) 放送大学面接授業教材 ①西洋美術史	平成4年8月	基本的美術用語の説明と、絵画・彫刻を中心に、各時代の様式を古代から近代にいたる広い範囲の中で解説した。
②西洋美術史	平成5年8月	文献や年表や展覧会の鑑賞方法や、東京で開催中および秋に予定されている西洋美術の展覧会のみどころを紹介した。
③近代絵画史	平成6年2月	ヨーロッパ近代の時代背景や画家の生い立ちなどを紹介しながら、代表的な作品を解説した。
④近代美術の流れ	平成6年8月	ヨーロッパの近代美術の大きな流れを各人が理解できるように、ジャポニスムの影響も指摘しながら作品を解説した。
⑤ヨーロッパ近代美術史	平成7年2月	おもに革命後のフランスの新古典主義・ロマン主義・写実主義の代表的作品を解説した。
⑥ヨーロッパの近代美術	平成8年2月	印象主義と後期印象主義を中心に代表的な画家の芸術の特性を理解することをねらいとして解説した。
⑦バロックの美術と工芸	平成9年8月	17世紀ヨーロッパの代表的な建築・絵画・彫刻作品のほか、デルフト陶器などの工芸品や当時の服飾を解説した。
⑧ロココの美術	平成10年2月	ヴァトーやフラゴナールやシャルダンの油彩画、ラ・トゥールのパステル画、ゲインズバラ等の水彩画について解説した。
⑨新古典主義の美術	平成10年8月	19世紀初頭フランスの新古典主義美術の中で、とくにダヴィッドやアングルらの絵画作品を中心に解説した。
⑩19世紀の美術	平成12年2月	ヨーロッパ19世紀の社会的背景を考察した後、代表的な画家や彫刻家の作品を解説した。
⑪後期印象派の芸術	平成13年2月3日	後期印象派の芸術の理解を深めることを目標とし、各画家の作品の特色を検討し、作品鑑賞の参考となるように解説した。
⑫世紀末の芸術	平成13年8月 11・12日	フランスやベルギーで発展したアール・ヌーヴォーの建築・家具・工芸・服飾について解説した。
⑬18世紀の美術	平成14年2月	18世紀のシノワズリ（中国趣味）を検討しながら、染織やドイツのマイセン、フランスのセーヴルの陶磁器について解説した。
⑭新古典主義の美術	平成14年8月	ナポレオンの時代の絵画、建築、彫刻、服飾、セーヴル陶磁器・家具・金工品などの工芸品を解説した。

事 項	年月日	概 要
⑮印象派の美術	平成15年2月	印象派以前の美術を紹介したのち、マネの芸術を中心に、印象派の旗揚げとなった第一回印象派展を解説した。
⑯後期印象派の絵画	平成15年8月	ヨーロッパ19世紀美術の流れを通覧しつつ、後期印象派のセザンヌ・ゴッホ・ゴーガンらの絵画を中心に解説した。
⑰世紀末芸術の魅力	平成16年2月	パリの美術館所蔵のモローやルドンらの作品を中心に、ヨーロッパの世紀末芸術の魅力について解説した。
⑱20世紀の芸術	平成16年8月	20世紀初頭のヨーロッパの建築や彫刻、フォーヴィスムや表現主義などの新しい絵画運動、工芸品や服飾を解説した。
⑲イタリア近世の芸術	平成17年2月	ルネサンス時代のダ・ヴィンチやラファエロの絵画、ミケランジェロの彫刻や建築について解説した。
⑳バロック美術	平成17年8月	スペインのベラスケス、フランドルのリュベンス、オランダのレンブラントやフェルメールの絵画作品を解説した。
㉑フランスのバロック美術	平成18年2月	ルイ14世時代のヴェルサイユ宮殿の建築と庭園やラ・トゥールやブッサンやクロード・ロランらの絵画について解説した。
㉒フランスのロココ美術	平成18年8月	ルイ15世16世時代の絵画・彫刻・建築のほか家具・金工品などの工芸品を解説した。
㉓印象主義の絵画	平成19年2月	第一回印象主義展の意義を説明したあと、マネ、モネ、ドガらの絵画作品の理解を深めることをねらいとして解説した。
㉔後期印象主義の美術	平成19年8月	ゴッホやゴーガンの芸術の特徴を確認したあと、スーラやシニャックらの点描主義やボナールらのナビ派について解説した。
㉕世紀末美術	平成20年2月	ノルウエーのムンクやオーストリアのクリムトやエゴン・シーレらの絵画や版画を中心に、世紀末美術を解説した。
㉖20世紀の美術	平成20年8月	20世紀の新しい絵画運動の中で、フォーヴィスム・キュビズム・抽象主義・構成主義について解説した。
㉗印象主義の美術	平成21年11月	パリのオランジェリー美術館所蔵のモネの《睡蓮》を分析した後、ルノワール・シスレー・ピサロらの作品を解説した。
㉘後期印象主義の美術	平成22年10月	絵画技法や時代背景や当時のファッションに目を向けながら、後期印象主義が20世紀美術に果たした役割について解説した。
㉙ヨーロッパの世紀末美術	平成23年11月	絵画を中心に建築や工芸や彫刻や服飾などのヨーロッパ19世紀末の芸術について解説した。
㉚ルネサンスの芸術	平成24年12月	代表的な作家や名作への理解を深めることを目標とし、ルネサンスの絵画・建築・彫刻・工芸作品を解説した。
㉛バロックの美術	平成25年4月	イタリアのベルニーニの建築や彫刻、スペインのベラスケス・フランドルのルーベンス・オランダのレンブラントやフェルメールらの絵画作品のほか、デルフト陶器などの工芸品や、当時の服飾や髪型などのファッションを解説した。
㉜ヨーロッパ18世紀ロココの美術	平成27年7月	ヨーロッパ18世紀、主にフランスのロココ美術について解説した。
㉝新古典主義とロマン主義の芸術	平成28年6月	フランスの新古典主義とロマン主義の美術について解説した。
㉞ロマン主義・写実主義・印象主義	平成29年6月	19世紀前半のイギリス・ロマン主義とフランスの写実主義、印象主義について解説した。

事 項	年月日	概 要
③⑤印象派の絵画	平成30年6月	19世紀後半のフランスに登場した新しい美術運動「印象派」の絵画について解説した。
③⑥世紀末の美術	2019年11月	ヨーロッパ各国の19世紀末の絵画のほか、アール・ヌーヴォーの建築や工芸について解説した。
③⑦イタリア・ルネサンスの美術	2020年11月	イタリアの特に盛期ルネサンスの絵画について解説した。
③⑧バロックの美術	2021年10月	17世紀バロックのイタリア、オランダ、スペインなどの美術について解説した。
③⑨ルネサンス美術	2022年10月	初期ルネサンス（プロト・ルネサンス）の絵画、彫刻、建築、工芸、ファッションについて解説した。
④⑩盛期ルネサンス美術	2023年10月	盛期ルネサンスの絵画、彫刻、建築、工芸、ファッションについて解説した。
3 教育上の能力に関する大学等の評価		
4 実務の経験を有する者についての特記事項		
1) 学生指導	昭和61年11月	東京藝術大学美術学部藝術学科京都・奈良古美術研修旅行引率)
2) 留学生指導	平成2年3月	Art Conferenceを企画・司会担当（英語）
3) 留学生指導	平成2年11月	Art Conferenceを企画・司会担当（英語）
4) 社会人の教育指導	平成4年～現在	放送大学の面接授業
5) 社会人の教育指導	平成11年8月24日	宝塚市民キャンパス大学公開講座
6) 口頭発表	平成14年8月7日	国際経験美学会において（英語）
7) 社会人の教育指導	平成15年4・5・6・7月	宝塚造形芸術大学大学院サテライト・エクステンション・コース講義)
8) 社会人の教育指導	平成15年11月6日	宝塚造形芸術大学公開講座
9) 社会人の教育指導	平成23年9月6日	UHB大学一般教養講座（道民カレッジ連携講座）
10) 高校生・社会人の教育指導	平成24年7月21日	札幌大谷大学オープンキャンパス
11) 高校生・社会人の教育指導	平成24年9月15日	札幌大谷大学オープンキャンパス
12) 社会人の教育指導	平成24年10月6日	札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部 公開講座 道民カレッジ連携講座
13) 高校生の教育指導	平成24年11月8日	札幌大谷大学芸術学部美術学科×札幌大谷高等学校美術科連携授業
14) 高校生・社会人の教育指導	平成25年9月14日	札幌大谷大学オープンキャンパス
15) 高校生の教育指導	平成25年11月6日	札幌大谷大学芸術学部美術学科×札幌大谷高等学校美術科連携授業

事 項	年月日	概 要
16) 社会人の教育指導	平成26年4月 ～平成27年3月	NHK文化センター新さっぽろ教室 講座
17) 高校生・社会人の教育指導	平成26年9月 13日	札幌大谷大学オープンキャンパス
18) 社会人の教育指導	平成27年4月 ～ 平成28年3月	NHK文化センター新さっぽろ教室 講座
19) 社会人の教育指導	平成27年6月2 日	UHB大学一般教養講座（道民カレッジ連携講座）
20) 社会人の教育指導	平成28年4月 ～ 平成29年3月	NHK文化センター新さっぽろ教室 講座
21) 社会人の教育指導	平成29年4月 ～ 平成30年3月	NHK文化センター新さっぽろ教室 講座
22) 社会人の教育指導	平成30年4月 ～ 2019年3月	NHK文化センター新さっぽろ教室 講座
23) 社会人の教育指導	平成30年6月2 日	札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部 公開講座 道民カレッジ連携講座
24) 社会人の教育指導	平成30年6月 30日	札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部 公開講座 道民カレッジ連携講座
25) 社会人の教育指導	平成30年7月 28日	札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部 公開講座 道民カレッジ連携講座
26) 社会人の教育指導	平成30年9月 ～2019年3月	札幌大谷大学芸術学部美術学科科目履修生指導
27) 社会人の教育指導	平成30年11月 20日	札幌大谷大学社会学部主催 特別公開文化講座・フォーラム
28) 社会人の教育指導	2019年4月～ 2020年3月	NHK文化センター新さっぽろ教室 講座
29) 新聞掲載	2019年7月 16日	北海道新聞に「連携事業第2弾として、8月8日午後7時から、印象派の絵画と音楽がテーマの講座が、大谷記念ホールで開かれる。講師は、千葉潤教授とピアニスト外山啓介講師、下浜晶子教授（芸術学）。」と掲載される。
30) 学生・社会人の教育指導	2019年8月8日	札幌大谷大学・札幌文化劇場hitaru連携事業アート・プログラム（札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部 公開講座 道民カレッジ連携講座） 「印象派の絵画と音楽
31) 社会人の教育指導	2019年8月23 日	イタリアの美と歴史を紐解く 美術・芸術史講座 （於 時計台ビル）
32) 高校生・社会人の教育指導	2019年11月3 日	札幌大谷大学オープン・キャンパス 体験授業 「ルネッサンス美術入門―歴史と技法とファッション―」
33) 社会人の教育指導	2020年4月～ 2021年3月	NHK文化センター札幌教室 講座

事 項	年 月 日	概 要
34) 社会人の教育指導	2021年4月～ 2022年3月	NHK文化センター札幌教室 講座
35) 社会人の教育指導	2022年4月～ 2023年3月	NHK文化センター札幌教室 講座
36) 社会人の教育指導	2023年4月～ 2023年12月	NHK文化センター札幌教室 講座
37) 高校生・社会人の教育指導	2023年10月15 日	札幌大谷大学オープン・キャンパス 体験授業 「美術作品にみられる技法とファッション」
38) 社会人の教育指導	2024年1月～	道新文化センター 講座
5 その他 審査		
1) 美術史学会学会誌「美術史」 審査（平成21年度査読委員）	平成21年4月～ 平成22年3月	学会誌査読を通して他大学の講師や大学院博士課程の学生を指導。
2) 東京藝術大学大学院紀要 審査（平成24年度査読委員）	平成24年4月～ 平成25年3月	紀要査読を通して東京藝術大学大学院博士課程の学生を指導。
3) 東京藝術大学大学院紀要 審査（平成25年度査読委員）	平成25年4月～ 平成26年3月	紀要査読を通して東京藝術大学大学院博士課程の学生を指導。
4) 東京藝術大学大学院紀要 審査（平成26年度査読委員）	平成26年4月～ 平成27年3月	紀要査読を通して東京藝術大学大学院博士課程の学生を指導。
5) 東京藝術大学大学院紀要 審査（平成27年度査読委員）	平成27年4月～ 平成28年3月	紀要査読を通して東京藝術大学大学院博士課程の学生を指導。
6) 東京芸術大学大学院紀要 審査（平成28年度査読委員）	平成28年4月～ 平成29年3月	紀要査読を通して東京藝術大学大学院博士課程の学生を指導。
7) 東京藝術大学大学院紀要 審査（平成29年度査読委員）	平成29年4月～ 平成30年3月	紀要査読を通して東京藝術大学大学院博士課程の学生を指導。
8) 東京藝術大学大学院紀要 審査（平成30年度査読委員）	平成30年4月～ 2019年3月	紀要査読を通して東京藝術大学大学院博士課程の学生を指導。
9) 東京藝術大学大学院紀要 審査（令和元年度査読委員）	2019年4月～ 2020年3月	紀要査読を通して東京藝術大学大学院博士課程の学生を指導。
10) 東京藝術大学大学院紀要 審査（令和2年度査読委員）	2020年4月～ 2021年3月	紀要査読を通して東京藝術大学大学院博士課程の学生を指導。
11) 東京藝術大学大学院紀要 審査（令和3年度査読委員）	2021年4月～ 2022年3月	紀要査読を通して東京藝術大学大学院博士課程の学生を指導。
12) 東京藝術大学大学院紀要 審査（令和4年度査読委員）	2022年4月～ 2023年3月	紀要査読を通して東京藝術大学大学院博士課程の学生を指導

職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項		
事 項	年月日	概 要
1 資格, 免許 1) 学芸員資格	昭和57年3月	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1)	昭和53年7月	ドイツの大学教授Dr. Bauerと武藤東京藝術大学教授と石川県金沢市の日本美術調査研究
2)	昭和54年8月	山川武 東京藝術大学教授と近世日本絵画調査研究
3)	昭和55年4月 ～56年3月	東京藝術大学美術学部工芸科に学内留学・染織科で共同研究
4)	昭和55年8月	石川県輪島市に輪島塗調査研究
5)	昭和57年3月	歌田真介東京藝術大学教授(前東京藝術大学美術館館長)とブーシェの油彩画技法調査研究
6)	昭和58年	坂本一道 東京藝術大学教授とルーベンスの油彩画技法調査研究
7)	昭和58年4月 ～61年12月	青山昌文(放送大学教授)・木村三郎(日本大学教授)塩川徹也(東京大学名誉教授)・玉井通和(日本大学教授)ほかと近世フランス美術研究会
8)	昭和60年12月	日仏美術学会会報 vol. 5. p. 53-4. ほかに上記研究会の研究結果を記載
9)	昭和61年11月	東京藝術大学美術学部藝術学科京都・奈良古美術研修旅行引率(学生指導)
10)	昭和62年3月 ～63年12月	米国サン・ディエゴ州立大学大学院留学(米国の修士号取得)
11)	昭和63年8月	米国メトロポリタン美術館修復研究所ほか米国各地の美術館にて調査研究
12)	昭和63年11月	米国サン・ディエゴ州立大学大学院修士論文に上記調査研究を記載
13)	平成元年3月	米国 美術史学会 参加 (於 サンフランシスコ市)
14)	平成元年10月	米国大学教授Dr. Gibsonと京都の美術調査研究
15)	平成2年1月	Art Conferenceを企画・発表(英語)(於 東京藝術大学留学生指導)
16)	平成2年4月	日仏美術学会会報 vol. 11. p. 21-36. に上記平成元年の調査研究を記載
17)	平成2年10月	米国大学教授Dr. Cazoと奈良の仏像美術調査研究
18)	平成2年11月	Art Conferenceを企画・司会担当(英語)(於 東京藝術大学留学生指導)
19)	平成4年～ 毎年	放送大学の面接授業(現在に至る)(社会人の教育指導)
20)	平成7年7月	フランス ルーヴル装飾美術館・セーヴル市陶磁器美術館などで調査研究

事 項	年月日	概 要
21)	平成8年8月	世界美術大全集 第18巻 小学館「フランス・ロココの彫刻と工芸」に上記調査研究結果を記述
22)	平成10年5月	辻茂東京藝術大学教授らと美術調査研究
23)	平成11年8月 24日	宝塚市民キャンパス大学公開講座 (社会人の教育指導)
24)	平成12年10月	国立学博物館(吹田市)にて森田恒之教授と絵画の材質調査研究
25)	平成13年6月	海老沢敏 国立音楽大学名誉教授ほか日本18世紀学会会員と会合
26)	平成13年6月	上記会合結果を日本18世紀学会年報に記載
27)	平成14年8月7日	国際経験美学会において口頭発表 (英語)
28)	平成15年4・ 5・6・7月	宝塚造形芸術大学大学院サテライト・エクステンション・コース講義 (社会人の教育指導)
29)	平成15年11月 6日	宝塚造形芸術大学公開講座 (社会人の教育指導)
30)	平成16年7月	三田村有純 東京藝術大学工芸科教授ほかと京都の川島織物や金箔などの工芸美術調査研究
31)	平成16年10月	Dr.Whitehouse米国Case Western Reserve University 教授と佐々木恵精 京都女子大学教授の調査研究企画 Whitehouse教授は研究結果”The Myth of Alzheimer’s”を出版
32)	平成16年11月	小笠原小枝日本女子大学教授 (東京国立博物館客員研究員) らと正倉院展 (奈良市) にて工芸調査研究
33)	平成17年5月	森洋子明治大学教授と竹中大工道具館にて道具を調査研究
34)	平成17年11月	宝塚造形芸術大学が大阪市立近代美術館見学の際、橋爪節也大阪大学教授(当時同美術館学芸員)の講演を企画
35)	平成18年11月	宝塚造形芸術大学が大阪市立近代美術館見学の際、橋爪節也大阪大学教授(当時同美術館学芸員)の講演を企画
36)	平成20年10月	佐々木英也 東京藝術大学教授ほかと京都にて美術調査研究
37)	平成24年3月	木下直之東京大学教授、宮下規久朗神戸大学教授ほかの札幌市における美術館博物館の調査研究会に随行・会合。
38)	平成24年3月	イタリア・フランスにて美術調査研究。成果は札幌大谷大学講義や各講演に反映。
39)	平成25年3月 30日	佐々木英也 東京藝術大学名誉教授ほかと千葉県柏市にて美術研究会合。
40)	平成28年3月	東京国立博物館の生誕150周年記念「黒田清輝」展にて美術調査研究。
41)	平成29年5月 12日	北海道150周年記念誌「だての世紀」編集者からインタビューを受ける。(於 札幌大谷大学会議室)

事 項	年月日	概 要
42)	平成29年6月 30日	「学芸倶楽部」(於 東京藝術大学)の情報交換会にて、樋田豊次郎東京都庭園美術館館長、真室佳武東京都美術館館長や東京藝術大学美術学部教授ほか美術館博物館関係者、大学教員らと交流・会合。
43)	平成29年10月	京都国立博物館開館120周年記念特別展覧会「国宝」で美術調査研究、札幌大谷大学「仏教美術」講義ほか反映。
44)	平成29年12月	国立西洋美術館「北斎とジャポニスム」展、三菱一号館美術館「パリ・グラフィック ロートレックとアートになった版画とポスター展」にて調査研究、著書「ロートレック」の内容を確認。
45)	平成30年2月	三菱一号館美術館「ルドン」展で調査研究、大学講義や講演会に反映。
46)	平成30年3月	金沢市の石川県立美術館にて村瀬博春学芸課長と古九谷の調査研究、29年度の札幌大谷大学紀要に投稿した論文の内容を確認した。
47)	平成30年3月	近世美術研究会後援の木村三郎日本大学教授の退官記念講演会(於 日本大学芸術学部江古田校舎)に参加・会合。
48)	平成30年3月 24日～4月1日	フランスにてヨーロッパ中世から近代美術について調査研究、成果は札幌大谷大学公開講座や各講演会に反映。
49)	平成30年9月1 日	北海道立近代美術館「百花繚乱」展で調査研究、講義や講演に反映。
50)	平成30年9月 16日	東京大学大学院教授・静岡県立美術館館長 木下直之氏と講演会「銅像時代—明治150年の光と影」(於 本郷新記念札幌彫刻美術館)について会合。
51)	平成30年11月 10日	東京上野の森美術館「フェルメール」展でバロック美術、東京国立博物館「京都大報恩寺 快慶・定慶のみほとけ」展で仏教美術、「マルセル・デュシャンと日本美術」で東西美術交流の調査研究を行い、講義や講演に反映。
52)	2019年7月28 日	北海道立近代美術館「東山魁夷」展で調査研究、仏教美術の講義に反映。
53)	2019年8月4日	札幌芸術文化劇場でオペラ「トゥーランドット」を鑑賞、舞台美術、衣装を研究。
54)	2019年8月18 日	小樽芸術村のステンドグラス美術館と似鳥美術館でティファニーのステンドグラスとランプの主に技法について調査研究を行い、講義や講演に反映。
55)	2019年9月11 日	札幌芸術文化劇場で「レ・ミゼラブル」を鑑賞。ロマン主義美術の講義や講演に反映。
56)	2019年9月21 ～28日	フランス ニース市ではニース美術館でモッサほか世紀末美術、マチス、シャガール両美術館ではフランス近代美術について調査研究を行い、講義や講演に反映。 パリ市では、モネの庭園、マルモッタンやオランジェリー美術館にてモネの最晩年の作品《水連》について研究、今年度のアート・フォーラム(札幌大谷大学公開講座)の講演内容を確認した。
57)	2019年10月10 日	札幌芸術の森美術館「バルセロナ」展で調査研究、講義や講演に反映。

事 項	年月日	概 要
58)	2019年10月12日	北海道立近代美術館「カラヴァッジオ」展で調査研究、講義や講演に反映。
59)	2019年10月25日	株式会社 谷庄の谷村庄太郎氏と九谷焼や大樋焼などについて会合（於 金沢市）
60)	2020年10月2日	北海道立近代美術館「神田日勝」展で調査研究、講義や講演に反映。
61)	2020年11月10日	株式会社 谷庄の谷村庄太郎氏輪島塗や陶磁器などについて会合（於 金沢市）
62)	2021年10月2日	北海道立近代美術館「よみがえる正倉院宝物」展で調査研究、講義や講演に反映。
63)	2022年1月16日	東京三菱一号館美術館「イスラエル美術館所蔵 印象派・光の系譜」展で調査研究、講義や講演に反映。
64)	2022年3月19日	東京都美術館「ドレスデン国立美術館」展で調査研究、講義や講演に反映。
65)	2022年5月14日	北海道立近代美術館「17世紀オランダ絵画展」で調査研究、講義や17世紀研究に反映。
66)	2022年5月29日	国立新美術館「メトロポリタン美術館展 西洋絵画の500年」で調査研究、講義や講演に反映。
67)	2022年6月18日	東京都美術館「ドレスデン国立美術館 美の巨匠たち」で調査研究、講義や近世研究に反映。 国立博物館常設展で調査研究、講義や講演に反映。
68)	2022年10月14日	北海道立近代美術館「国宝 法隆寺展」で調査研究、講義や講演「法隆寺の世界・1400年の美 仏教美術を探る」に反映。
69)	2023年5月14日	西洋美術館「ブルターニュ」、東京都美術館「マティス」、東京都現代美術館「ディオール」展で調査研究、講義や講演に反映。
70)	2023年7月16日	東京国立近代美術館「ガウディ」展で調査研究、講義や講演に反映。
71)	2023年9月2日	北海道博物館 ユネスコ世界登録記念「北の縄文世界と国宝」展で調査研究、講義に反映。
72)	2023年9月24日	国立新美術館「サン・ローラン」展で調査研究、講義や講演に反映。
73)	2023年12月3日	箱根のガラス美術館、ラリック美術館で調査研究、講義や講演に反映。
74)	2024年1月19日	国立西洋美術館「ポンピドゥーセンター キュビズム」展、上野の森美術館「モネ」展で調査研究、講義や講演に反映。
4 その他		

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 1. パリ物語「日本でみられるエコール・ド・パリの名画」	共著	昭和59年10月	日本アイ・ビーエム社 80頁	(担当部分概要) pp. 78～79. 国立西洋美術館、北海道立近代美術館、埼玉県立近代美術館、ブリヂストン美術館、マリー・ローランサン美術館、大原美術館、ひろしま美術館などが所蔵する日本で見られるエコール・ド・パリの名画について解説した。北海道立近代美術館所蔵の中では、特にパスキンの「花束を持つ少女」「白いリボンの少女」について論じた。 (共著者) 花井幸子、阿部信雄、辻邦夫、大岡 信、 <u>下濱(岩) 晶子</u>
2. エコール・ド・パリを知るためのブック・ガイド	共著	昭和59年10月	日本アイ・ビーエム社 80頁	(担当部分概要) p. 80. 作品をより深く理解するために、エコール・ド・パリについて書かれた本を一般、シャガール、藤田嗣治、マリー・ローランサン、モディリアーニ、パスキン、スーティン、ユトリロの作家別に日本語文献を編集した。入手しやすいものは、欧文文献も紹介した。 (共著者) 小倉正史、伊藤俊治、 <u>下濱(岩) 晶子</u>
3. NHKループル美術館 第3巻	共著	昭和60年9月	日本放送出版協会 190頁	(担当部分概要) pp. 182～183. NHKとフランステレビが世界最大の美術館ループルの全貌を、1年間13回にわたり紹介した画期的番組を共同制作し、本書は、その画面を再現し、美術史の解説を付した。著者は、ここでループル作品を中心に中世からルネサンスの歴史的流れを明らかにした。 (共著者) 馬杉宗男、 <u>下濱(岩) 晶子</u>
4. NHKループル美術館 第6巻	単著	昭和61年3月	日本放送出版協会 182頁	(担当部分概要) pp. 174～177. NHKとフランステレビ共同制作番組「ループル美術館」を再現した本書で、著者は、ループル作品のバロックからロココ時代の歴史の流れを浮かび上がらせた。フランスと各国の美術、イタリア・スペイン・プロシア・イギリスなどヨーロッパ一般、さらに日本の歴史的事項とも比較検討した。 (共著者) 木村三郎、 <u>下濱(岩) 晶子</u>

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 5. リール市立美術館所蔵『フランス19世紀絵画展』	共著	平成3年9月	そごう美術館 170頁	(担当部分概要) pp. 30～40. フランスの地方都市リール市立美術館が所蔵する作品の展覧会カタログの中で著者はフランス19世紀前半の絵画を中心に解説した。リール市は歴史のある町で、市立美術館所蔵の作品は、由来もはっきりしていて質の高い作品が多い。作家の特質がわかるように記述した。 (共著者) 高橋明也、 <u>下濱晶子</u>
6. ロココの魅力ー感覚のよこびと美へのたわむれ：グレート・アーティスト別冊	単著	平成3年9月	同朋舎出版 144頁	(担当部分概要) pp. 12～17, pp. 38～41, pp. 138～141 古き、よきヨーロッパの魅力を、いまに伝える繊細優美なロココの美術。その中から豊富な図版を選び、「異郷へのあこがれ」「王侯たちの見た夢」の項目に分けて、ヨーロッパ宮廷文化華やかなりし頃の絵画、室内装飾、調度品など、かろやかに美と戯れる芸術家たちの、華麗にして官能的な作品を論じた。 (共著者) 高橋裕子、大野芳材、 <u>下濱晶子</u>
7. バラの美術館	単著	平成5年5月	集英社 87頁	(担当部分概要) p. 37. シノワズリ(中国趣味)について解説した。シノワズリとは、西洋において東方とくに中国の文化所産に表現の源を見い出した文化上の一傾向、さらにそれにもとづく芸術作品のことを意味する。なかでも著者は、バラが描かれているロココの画家ブーシェの「中国主題のタピスリー」連作下絵とビュショー編「中国ヨーロッパ美術精選図集」をとりあげて論じた。 (共著者) 荒俣宏、 <u>下濱晶子</u>
8. 逸楽のロココ：名画への旅 第15巻	単著	平成5年6月	講談社 149頁	(担当部分概要) pp. 78～95. NHK日曜美術館「名画への旅」のテレビ番組を再現した本著では、「与えられた美術鑑賞」から一歩踏み込んで「自分で探り、楽しむ、名画への旅」を目指した。その中で著者は、フランス18世紀の画家フラゴナールの油彩画<ぶらんこ>をとりあげ、人間心理までもよく理解できることを目指した。 (編著者) 鈴木杜幾子、森田義之、 (共著者) 大野芳材、伊藤巳令、 <u>下濱晶子</u> 、越川倫明

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 9. ロートレック	単著	平成5年11月	日本経済新聞社 94頁	(概要) パリの賑わい、歌手やダンサーのコミカルな表情、街の人々の喜怒哀楽を鋭い観察眼で捉えたロートレックの世界を、論述した。本著の前半は著者の分析による画家論、後半は、絵と画家自身の言葉とを対比記述し、ロートレックの人と芸術が自ずからうかびあがるようにした。画家の版画制作への日本の浮世絵の影響も指摘した。
10. 世界美術大全集 第18巻：ロココ	単著	平成8年8月	小学館 456頁	(担当部分概要) pp. 149～172, pp. 361～372. 全て新しく撮り下ろした高い質の図版と、最新の研究を満載し、小学館が創立70周年を記念し総力を結集して制作した画期的な美術大全集。著者はフランス現地に赴き、ルーヴル装飾美術館、セーヴル市陶磁器美術館で調査研究した結果を「フランス・ロココの彫刻と工芸」の章で記載した。 (編者) 坂本満 (共著者) 大野芳材、森洋子、 <u>下濱晶子</u>
11. ロココの魅力：THE GREAT HISTORY OF ART 第6巻	単著	平成9年2月	同朋舎 発売：角川書店同朋舎 144頁	(担当部分概要) pp. 12～17, pp. 38～41, pp. 138～141. 「華ひらくロココ」「＜英国主義＞の興隆」「イタリアー栄光の残照」「ロココ芸術の波及」という本書の構成の中で、著者は、シノワズリおよびドイツロココ建築の様式、とくにフィアツェーンハイリゲン巡礼聖堂などの宗教建築やシェーンブルン宮やニュンフェンブル宮などの宮殿建築について論じた。 (共著者) 矢野陽子、 <u>下濱晶子</u>
12. イメージとパトロン —美術史を学ぶための23章	単著	平成21年6月	ブリュッケ 396頁	(担当部分概要) pp. 311～328 「ロココ芸術と美術アカデミーヴァトーを中心に」 美術制作には、完全に私的な制作活動が登場する近代末期以前は、あらゆるイメージの制作過程にパトロンが介在している。そのため、イメージを分析する際には、パトロンの分析も不可欠になる。このような意図で出版された本書で、著者は画家ヴァトーを中心に「ロココ芸術と美術アカデミー」を論じた。 (監修) 浅井和春 (編者) 稲本万里子、池上英洋 (共著者) 稲本万里子、池上英洋 <u>下濱晶子</u>

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 13. だての世紀	単著	平成29年12月	中西出版 28か1頁	(担当部分概要) p. 93 「日本の美術教育における印象派の受容」 北海道150周年記念誌である「だての世紀」の美術特集において、昨年28年度の「黒田清輝展」の美術調査研究の成果を発表した。
14. 10歳からの「美術の歴史」世界・日本の名作がわかる本	単著 (監修)	2020年11月	カルチャーランド制作 メイツユニバーサルコンテンツ発行	p. 101 「日本人はなぜ印象派を好むのか」 印象派对写真派の構造を分析した (編者) 川南正枝、野田耕作 巨匠たちの人柄や功績とともに歴史をたどって、美術の歴史をやさしく解説した。子供だけでなく大人も楽しめる概説書になっている。
(学術論文) 1. アントワヌ・ヴァトーの雅宴画(fête galante)について	単著	昭和59年3月	東京芸術大学修士論文	(概要) アントワヌ・ヴァトーの雅宴画(fête galante)の特質と意義を明らかにすることを目標とした。本論文は、ロココ時代盛期の画家フランソワ・ブーシェの神話画の構図の独自性を論じた卒業論文を発展させたものである。ロココ時代を理解するには、ロココ絵画の創設者ヴァトー芸術を理解することは必須である。
2. Quelques aspects du paysage chez Antoine Watteau (仏語)	単著	昭和60年12月	日仏美術学会会報 vol. 5 pp. 53～54	(概要) アントワヌ・ヴァトーの初期から後期にかけての風景画について論述した。パーカーとマティのカタログによれば、人物画が描かれていない風景画はヴァトーの油彩画に殆どないが、デッサンには多数残る。その多くは雅宴画(fête galante)の背景として下絵素描された。風景は雅宴画の重要な要素の一つであることが明らかとなった。
3. 西洋美術史のための参考図書と東京を中心としたその所在地	共著	昭和62年	日仏美術学会会報別冊 30頁	(担当部分概要) 美術史研究で最初に参考すべき基礎文献から専門家むけの文献を体系的に紹介し、さらに東京大学、東京藝術大学、早稲田大学、慶応大学、日本大学、成城大学、日仏会館図書室などに所蔵される和書・洋書の西洋美術史のための参考図書の所在地を調査し、図表化した。 (共著者) 木村三郎、坂上桂子、 <u>下濱晶子</u>

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文) 4. Jean Antoine Watteau: Some Sources and the Significance of his Designs. (英語)	単著	昭和63年11月	米国サン・ディエゴ州立大学大学院 修士論文	(概要) フランス18世紀の画家ジャン・アントワヌ・ヴァトー (1684～1721) の芸術の意義と借用の源泉を指摘した。第1章では、ヴァトー作品と舞台美術、第2章では、オランダ美術の風俗画の影響、第3章では、フランドル絵画との比較、第4章では、《シテール島の巡礼》(1717) について論述した。第1章でフォンテンブロー派の影響を指摘したことは意義深い。
5. JohnT. Spike: Giuseppe Maria Crespi and the Emergence of Genre Painting in Italy	単著	平成元年6月	日本18世紀学会年報 第4号 pp. 18～20.	(担当部分概要) ジョン・T・スパイクの新著「ジュゼッペ・マリア・クレスピとイタリアにおける風俗画」(英語) の書評である。クレスピは人物表現などに優れた画家であった。イタリアでは、オランダやフランドルやフランスなどヨーロッパの他の国に比べて風俗画は遅く出現したが、クレスピがその先鞭をつけた。庶民に向けるそのまなざしは温かい。
6. Watteau' s Figures as seen from the Back	単著	平成2年4月	日仏美術学会会報 vol. 9 pp. 16～17.	(担当部分概要) 本論文で、ヴァトーの人物の後ろ姿の借用の源泉として、オランダの画家テル・ボルフの作品を強調した。米国のカウンティ美術館が所蔵するテル・ボルフの作品《トランプをする人々》とヴァトーの作品《二人の従姉妹たち》に描かれた後ろ姿の共通点を指摘したことは意義深い。
7. 美術研究者のための アメリカ案内	単著	平成3年4月	日仏美術学会会報 vol. 10 pp. 85～89.	(担当部分概要) 本論文では、アメリカにおける美術研究の実情を紹介することに主眼をおいた。ヨーロッパの国々に比べると、美術品や原典が豊富に在ると言えないにもかかわらず、アメリカの美術研究の水準は高い。筆者が留学を通じ学んだのは、系統だった美術史の研究法、基礎からの訓練であった。
8. Discussion on Watteau' s Gilles(Pierrot) (英語)	単著	平成4年3月	日仏美術学会会報 vol. 11. pp. 21～36.	(担当部分概要) ヴァトーは貴顕の男女を描いた雅宴画の他に、演劇を素材にした作品を多数残した。《ジル (ピエロ)》(1718～19年頃、ルーヴル美術館) は、ヴァトーの画境が最も円熟した時代の作品である。《ジル》は画中で、様式的にも象徴的にも重要な意味を持つのである。

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文) 9. 18世紀におけるフランス工芸の発展	単著	平成13年5月	日本18世紀学会 pp. 17～18.	(担当部分概要) 18世紀フランスのロココ時代に特有の装飾様式は、まず室内装飾と工芸から始まった。ロココ芸術は他のどの時代にもまして総合芸術であり、絵画・彫刻・工芸のいずれの分野でも、個々の作品を取り出して個別に見るのではなく、その典雅な建築の中で、空間を構成する集合の一つとして見られるべきものであることを論じた。
10. 18世紀におけるフランス工芸の発展	単著	平成14年6月	日本18世紀学会年報第17号 pp. 8～9.	(担当部分概要) 18世紀の宮廷や邸館における社交生活の発展は、家具の発展をも促した。とくに女性の顧客のさまざまな要求に応え、新しい形と多彩な種類の家具が制作された。高級家具製作者はエベニストと呼ばれ、指物師とは区別された。ゴードローやエバンらが、フランス家具史の黄金期を形成し、各国に範を垂れたのである。
11. “The Interrelationship of Man and Nature in Watteau’s Paintings.” (英語)	単著	平成14年8月	国際経験美学会第17回 国際会議議事録 IAEA 2002 Proceedings pp. 419～422.	(担当部分概要) ヴァトーの《舞踏会の愉しみ》とフランドルの画家ヤンセンスの《舞踏会》を比較するとヴァトーの独自性が見えてくる。ヴァトーの作品では背景の風景に人物像が融和している。このような人物と風景との交感、雅宴画の重要なモチーフである。
12. “L’ Esthétique de Watteau” 邦訳題「ヴァトーの美学」(仏語)	単著	平成15年3月	宝塚造形芸術大学紀要 No. 16 pp. 47～57.	(担当部分概要) 18世紀の美学を具現する画家ヴァトーの代表作《シテール島の巡礼》を成立させる構成面については、未だ十分に研究されているとはいえない。本論では、「人物の動きの連続表現」 <i>personnages animés d’ un mouvement</i> と定義した構成に的を絞って、《シテール島の巡礼》の発想源を分析した。
13 日本の伝統工芸と絵画の鑑賞と指導 —アクティブラーニングを使って—	単著	平成29年3月	札幌大谷大学・札幌大谷短期大学部紀要 第47号 pp. 45～53	札幌大谷大学の教職課程必修の授業において、アクティブラーニングの手法を用いて鑑賞の授業を行った報告である。この授業により、1. 映像メディアにより、広く「アジアの文化遺産についても取り上げる」ことができた。2. 日本と西洋の美術の違いが認識できるようになった。3. 伝統工芸を鑑賞することで、「生活や社会を心豊かにする美術の働きについて」理解を深められた。4. 美術館での基本的知識とマナーを学べた。5. グループ・ディスカッションにより「批評し合う活動を取り入れる」ことができた。

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(その他) (口頭発表) 1. ヴァトー作《ジェルサンの看板》をめぐって	単	昭和58年7月	「美術史の諸問題」 東京芸術大学会議室	(担当部分概要) ヴァトーの代表作の一つ《ジェルサンの看板》(1720年)の構成や作品に託された意味を分析した。店頭といっても、たおやかな女性像など、この作品は雅宴画の延長上にある。肺病という病の終焉を自覚した時、夢から現実への回帰をもたらしたのである。
2. アントワヌ・ヴァトーの風景表現	単	昭和60年1月	日仏美術学会例会 東京日仏会館	(担当部分概要) 18世紀初頭、フランス絶対主義が完成し貴族の宮廷化が進むと、生活は田園から都会に移った。太陽王ルイ14世没後、貴族たちは開放感を味わい、壮麗な神話画や歴史画とは異なる新しい芸術上の表現と題材を求めている。ヴァトーの艶麗で香気あふれた作品は、時代の雰囲気をよく反映し、当時から高い評価を得た。
3. アントワヌ・ヴァトー《シテール島の巡礼》における造形表現	単	昭和60年6月	「絵画の見方」 東京芸術大学会議室	(担当部分概要) ヴァトーは《シテール島の巡礼》を提出し、アカデミーの正会員となった。シテール島は、伝説では愛の女神ヴィーナスの島で、ここを巡礼すると必ず伴侶を得られるという。画面には8組の優美な若い男女が、右端のヴィーナス像の下から、小高い丘を下って左端の水辺にとまる船へと緩やかな動きを展開している。
4. ヴァトー芸術における借用と創造	単	昭和61年6月	「美術における借用と創造」 東京芸術大学会議室	(担当部分概要) 田舎から出てきて食べるにも事欠いたヴァトーが、典雅な愛の宴を描くにいたるまでには、さまざまな体験と先達の作品との出会いがあった。当時フランスで流行していた＜恋愛風俗版画＞や＜モード版画＞などさまざまな影響が考えられるのである。
5. Jean Antoine Watteau: Some Sources and the Significance of his Designs (英語)	単	昭和63年12月	Art Congress San Diego State University (米国)	(担当部分概要) ヴァトーの作品の靈感源には、喜劇などの実際の舞台、中世以来の図像伝統、ヴェネツィア派やルーベンスの作品、オランダ・フランドルの風俗画など様々な影響が考えられる。風俗画のジャンルに舞台の靈感と田園的要素を吹き込み、実際の風俗を夢幻化し詩化したことが、ヴァトーの創意である。

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(その他) (口頭発表) 6. アントワーン・ヴァトー《シテール島の巡礼》の連続表現	単	平成元年11月	美術史学会西支部例会 大阪府立現代美術センター	(担当部分概要) ヴァトーの《シテール島の巡礼》では「人物の動きの連続表現」といえるゆるやかな動きが展開されている。この構成に着目するならば、この作品が描かれた場所は、シテール島そのものであり、故にこの作品はシテール島からの出発を描いたものであることが結論づけられるのである。
7. ヴァトーとオランダ絵画	単	平成2年1月	日仏美術学会研究会 東京日仏会館	(担当部分概要) ヴァトーの雅宴画の主要なモチーフのひとつである後ろ姿の人物像は、フェルメールやテル・ボルフら17世紀オランダ風俗画にしばしば描かれた。オランダでは多くの場合、後ろ姿の人物像は遠景に鑑賞者の視線を導く役割を担っている。ヴァトー作品では、人物は各々が自己の内省にひたっている。
8. Watteau's Gilles (Pierrot) (英語)	単	平成2年1月	Art Conference 東京芸術大学会議室	(担当部分概要) 演劇の主題は当時の趣味を反映したヴァトーの《ピエロ (ジル)》は、舞台の宣伝用の看板にとどまらない。自らは観客を楽しませながらも侮蔑される道化役者に画家は自己を託したと筆者は考える。艶麗な雅宴画を描く一方で、ヴァトーはこのような個の存在をはるかに超えた肖像画を生み出していた。
9. ヴァトー作品にみられる後姿の表現	単	平成2年2月	日仏美術学会例会 東京日仏会館	(担当部分概要) 摂政時代の典型的な婦人服(ローブ)は、ローブ・ヴォラントというひだ付きローブで、くつろいだ新時代の世相を反映している。ヴァトーが、ひだ付きローブを身にまといたおやかな後姿を見せる貴婦人たちを作品の多くに描いたことから、この種の服は、ローブ・ヴァトーとも呼ばれるのである。
10. 18世紀におけるフランス工芸の発展	単	平成13年6月24日	日本18世紀学会全国大会 日本大学	(担当部分概要) ロココの工芸品は、一つだけ取り出せば装飾過多にも見えるが、優雅な室内を構成する要素の一つとして見られる時、互いを引き立て合うのである。今回の発表では、18世紀のフランス工芸の各分野で、技法が飛躍的に発展をとげたことが明らかになった。 学会全国大会発表

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(その他) (口頭発表) 11. The Interrelationship of Man and Nature in Watteau's Paintings]	単	平成14年8月7日	国際経験美学会第17回 国際会議 宝塚造形芸術大学	(担当部分概要) ヴァトーの《舞踏会の愉しみ》は小品ながら珠玉のような作品。ヤンセンスの《舞踏会》と比較すると、類似点は多い。ヤンセンスの作品の背景は書割的であるが、ヴァトーの作品では背景の風景に融和している。 本発表には反響があり、質疑応答の時間には、英国人の本学会会長から質問を受けるという栄誉を頂いた。 国際学会発表(英語)
12. 美術史—ヨーロッパ近代美術の魅力を探る—	単	平成15年4月11・18・25日 5月9・16・23・30日6月6・13・20・27日7月4・11・18・25日	宝塚造形芸術大学・大学院サテライト・エクステンションコース 宝塚造形芸術大学	(担当部分概要) 一般市民の方を対象に、全15回にわたりヨーロッパ近代美術について概説した。とくにクリムトら世紀末美術、モネら印象主義美術、ゴッホらポスト印象主義美術を詳しく解説し、兵庫県立美術館で開催された「クリムト展」を全員で鑑賞し、授業の内容をより深く理解できた。
13. 近代フランスの美術—印象派の魅力	単	平成24年10月6日	札幌大谷大学公開講座 札幌大谷大学	西洋絵画を観るポイントを説明後、印象派の画家たちが目指したものや印象派の油彩画技法をマネやモネやルノワールらの広く好まれている作品をパーポイントを使って解説した。
(その他) (目録) 1. 東京藝術大学創立100周年記念 貴重図書展解題目録	共著	昭和62年11月	東京藝術大学 269頁	(担当部分概要) pp. 112～113. 東京藝術大学所蔵の386509冊の蔵書中貴重図書として指定されている783点のほかに、今回創立100周年を記念し、あらためて貴重と判断された250点の展覧会の解題目録である。著者は美術洋書部門の整理解題を行った。16世紀イタリアで当時大変評判になったバルダッレの「標章論」をとくに執筆担当した。 (共著者) 辻 茂、佐々木英也、越宏一、保井亜弓、 <u>下濱(岩)晶子</u>
(その他) (年報) 1. ジョン・マーティン作「失樂園」挿図三点について	単著	昭和59年12月	東京藝術大学芸術資料館年報 No. 18 pp. 6～7.	(担当部分概要) イギリスの画家ジョン・マーティン(1789～1854)の版画「失樂園」挿図について解説した。マーティンは、宇宙、聖書、東洋から想を得たテーマを用い、スケールの大きな幻想的で黙示録的な風景画を描き、ロマン主義的な想像力に訴えかけ、当時影響力を持った。この「失樂園」挿図も例外ではない。

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(その他) (翻訳) 1. ウィリアム・ブレイク展	共訳	平成2年9月	国立西洋美術館 320頁	(担当部分概要) pp. 70～80. ロマン主義者の先駆者の一人で、イギリスの画家・版画家・詩人でもあるウィリアム・ブレイク (1757～1827) の版画の解説を翻訳した。日本では初の大規模なブレイクの展覧会であり、「無垢の歌」をはじめとする彩飾本と大版色刷り版画を担当した。これらの版画は、ブレイクを当代の最も偉大な画家の一人としている。 (共訳者) 高橋明也、 <u>下濱晶子</u>
2. トゥールーズ=ロートレック=ロンドン、パリ作品展の記録	共訳	平成6年3月	同朋舎 558頁	(担当部分概要) pp. 10～270. フランスの画家トゥールーズ=ロートレック (1864～1901) の生誕130年を記念して、ロンドンとパリで開かれた大規模な回顧展のカタログ・レゾネの翻訳を行った。人物画のほかに、現代生活に取材した風俗画をテーマ別に分け解説を行った。 (著者) アンリ・トゥ, (共訳者) 池上忠治、清瀬みさを、 <u>下濱晶子</u>
3. グラフィック・デザイン全史	単	平成8年9月	淡交社 558頁	(担当部分概要) pp. 129～144. 「活版印刷の新時代」 フィリップ・B・メッグズの10年におよぶ調査研究の成果である原書は、アメリカ出版協会賞を授与されるなど、グラフィック・デザインを理解するのに不可欠の基本図書として高い評価を得ている。時代を25章に大別した通史で、訳者は第9章「活版印刷の新時代」を担当した。 (著者) フィリップ・B・メッグズ、藤田治彦 (共訳者) 高橋裕子、藪 亨、 <u>下濱晶子</u>
(その他) (辞典) 1. 西洋絵画作品名辞典	共著	平成6年5月	三省堂 1078頁	(担当部分概要) pp. 31～37, pp. 577～580. 絵画作品はひとつひとつが、美術史研究の出発点であり、到達点であり、研究対象として、あるいは情報としてつねに特定されていなければならない。この世に創り出されたひとつの作品の生命・価値を、他のものとは違った独自の存在として認識すること—これが、「作品名辞典」の存在理由である。筆者は18世紀フランスの画家を担当した。 (編者) 木村三郎、島田紀夫、千足伸行、千葉成夫、森田義之 (共訳者) 坂上桂子、 <u>下濱晶子</u>

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(その他) (依頼原稿) 1. ブーシェ展に寄せて 2. ロココの諸相 3. ピエロの憂い	単著 単著 単著	昭和57年9月 平成10年10月 平成15年8月	アトリエ N. 667 p. 96. 群馬評論社 pp. 18～22. 群馬評論社 pp. 25～27.	(担当部分概要) 東京都美術館で開催されたフランソワ・ブーシェ (1703～1770) の展覧会への寄稿文。ブーシェといえば、悦楽的な神話画がすぐに連想されるが、この展覧会で著者がひかれたのは、風景画であった。17世紀と19世紀の風景画全盛のはざまにあってブーシェが独自の自然像を形成していたことに注目した。 (担当部分概要) 18世紀フランス・ロココ時代、染織の分野も隆盛を極めた。タピスリーはゴブランとボーヴェの王立工場を中心に生産された。絹織物で最も名高いのは、ルイ14世治世下の宰相コルベールの命によって創設されたリヨン織物工場のものである。 (担当部分概要) ヴァトーの作品ではほかに類例がない等身大の全身像である《ピエロ (ジル)》は、ピエロ役で名を馳せた喜劇役者ベッローニが引退し、自分のカフェを開店した時に店先に出す看板として描かれたとも言われる。来歴から見ても高く評価され、現在に至るまで、多くの芸術家に靈感を与えてきた。
(その他) (講演等) 1. ヴァトー研究文献 解題 2. 西洋美術史	単 単	平成6年2月1日 平成11年8月24日	大阪大学 宝塚市民キャンパス大学公開講座 宝塚造形芸術大学	(担当部分概要) 辻成史大阪大学教授の司会で、最新のヴァトー研究を紹介し内容を分析した。1984年にパリとベルリンでヴァトー生誕300年を記念して大回顧展が開催されたのを機に研究は飛躍的に進んだ。今回の発表では、1984年に出版されたカタログ・レゾネ〔作品総目録〕以降の研究に焦点をあてた。 (担当部分概要) 一般の市民の方々を対象に、西洋美術史の流れの中で、とくに19世紀のヨーロッパ美術について解説した。参考図書や基礎知識、美術館での鑑賞方法を紹介したのち、代表的な絵画・建築・彫刻などの美術作品を、スライドやビデオやプリントなどの写真資料を用いて鑑賞した。

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(その他) (講演等) 3. ロココの魅力	単	平成15年11月6日	宝塚造形芸術大学公開講座 宝塚造形芸術大学	(担当部分概要) 社会人のための学びの場として誕生した「大学院サテライト」を記念した公開講座で、18世紀フランスの美術について講演した。ヴェルサイユ宮殿やパリの貴族の邸宅、典雅なヴァトーやブーシェの絵画、生活を彩った家具や金銀細工やセーヴル磁器、中国や日本の影響を受けた工芸品など、ロココ時代のフランス美術の魅力を伝えた。
4. 「名画への誘い」 —印象派の画家たち—	単	平成23年9月6日	UHB大学一般教養講座 (道民カレッジ連携講座) 於北海道新聞社8階道新ホール	UHB大学の一般教養講座で、19世紀フランスの印象派の絵画の鑑賞の仕方について講演した。
5. 「ヨーロッパの世紀末美術」	単	平成23年11月12・13日	放送大学 於 北海道大学	絵画を中心に建築や工芸や彫刻や服飾などのヨーロッパ19世紀末の芸術について解説した。
6. 札幌大谷大学芸術学部美術学科×札幌大谷高等学校美術科連携授業「印象派の美術」	単	平成24年11月8日	札幌大谷大学	モネやルノワールら印象派の作品を紹介した。
7. 「ルネサンスの芸術」	単	平成24年12月15・16日	放送大学 於 北海道大学	代表的な作家や名作への理解を深めることを目標とし、ルネサンスの絵画・建築・彫刻・工芸作品を解説した。
8. 「バロックの美術」	単	平成25年4月27・28日	放送大学 於 北海道大学	イタリアのベルニーニの建築や彫刻、スペインのベラスケス・フランドルのルーベンス・オランダのレンブラントやフェルメールらの絵画作品のほか、デルフト陶器などの工芸品や、当時の服飾や髪型などのファッションを解説した。
9. 札幌大谷大学芸術学部美術学科×札幌大谷高等学校美術科連携授業「ヨーロッパの近代の芸術」	単	平成25年11月6日	札幌大谷大学	ヨーロッパの近代の絵画作品をとりあげ、技法や作品の見方を解説した。
10. 「知っておきたい日本美術」	単	平成26年4月～9月 (月1回)	NHK文化センター新さっぽろ教室	絵画からは、富士山・浮世絵・琳派・花、工芸からは輪島塗・大樋焼を選び、日本美術の諸相を探った。
11. 「中世からアール・ヌーヴォーまで」	単	平成26年10月～平成27年3月 (月1回)	NHK文化センター新さっぽろ教室	西洋美術をあまり御存知ではない方達に、中世の建築・ルネサンス絵画・ロココの工芸・印象派の絵画・世紀末の服飾を取り上げて、その魅力を伝えた。

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(その他) (講演等)				
12.「ヨーロッパ18世紀のロココ美術」	単	平成27年4月～9月（月1回）	NHK文化センター新さっぽろ教室	18世紀ヨーロッパの主にフランスのロココ美術から、宮廷絵画・市民絵画・建築・彫刻・染織工芸などを解説した。
13.「フランス近代美術ー印象派からエコール・ド・パリへ」	単	平成27年6月2日	UHB大学一般教養講座（道民カレッジ連携講座） 於北海道新聞社8階 道新ホール	北海道立近代美術館の展覧会「フランス近代美術」の作品を中心にエコール・ド・パリの絵画を解説した。
14.「ヨーロッパ18世紀のロココ美術」	単	平成27年7月4・5日	放送大学 於 北海道大学	ヨーロッパ18世紀、主にフランスのロココ美術について解説した。
15.「新古典・ロマン主義の芸術」	単	平成27年10月～平成28年3月（月1回）	NHK文化センター新さっぽろ教室	フランス19世紀の新古典・ロマン主義の主に絵画について解説した。
16.「知っておきたい西洋美術」	単	平成28年4月～平成28年10月（月1回）	NHK文化センター新さっぽろ教室	イギリスのターナーと水彩画の歴史、フランスのバルビゾン派のコロ、ミレーの風景画、について解説した。
17.「新古典主義とロマン主義の芸術」	単	平成28年6月25・26日	放送大学 於 北海道大学	19世紀前半のイギリス・ロマン主義とフランスの写実主義、印象主義について解説した。
18.「印象主義の誕生」	単	平成28年10月～平成29年3月（月1回）	NHK文化センター新さっぽろ教室	19世紀アカデミー派の画家、マネの油彩画、当時開発された写真と写真にも影響を受けたドガの作品について解説した。
19.「印象主義の誕生II」	単	平成29年4月～平成29年9月（月1回）	NHK文化センター新さっぽろ教室	モネ、ジャポニスム、シスレー、ピサロについて解説した。
20.「ロマン主義・写実主義・印象主義」	単	平成29年6月17・18日	放送大学 於 北海道大学	19世紀前半のイギリス・ロマン主義とフランスの写実主義、印象主義について解説した。
21.「印象主義の発展」	単	平成29年10月～平成30年3月（月1回）	NHK文化センター新さっぽろ教室	19世紀の大改造により変貌したパリで発展した印象主義からルノワール、セザンヌ、ロートレックの作品を解説した。
22.「後期印象主義の画家たち ～ゴッホ・ゴーガン・スーラ～」	単	平成30年4月～平成30年9月（月1回）	NHK文化センター新さっぽろ教室	昨年札幌から始まり東京、京都、オランダを巡回する展覧会で話題のゴッホ、更にゴーガン、スーラの3人の後期印象主義の芸術を解説した。
23.「クリムトとエゴン・シーレ ～没後100年に寄せて」	単	平成30年4月14日	NHK文化センター新さっぽろ教室	今年没後100年にあたるクリムトとエゴン・シーレをとりあげ、滅び行くハプスブルグ帝国最後に華開いた世紀末美術を紹介した。
24.「印象派の絵画」		平成30年6月9・10日	放送大学 於 北海道大学	「人間と文化コース」において、19世紀後半のフランスの美術界に登場した新しい美術運動「印象派」について解説した。

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(その他) (講演等)				
25. 「世紀末美術の魅力」		平成30年10月～2019年3月 (月1回)	NHK文化センター 新さっぽろ教室	19世紀後半に流行した、夢や幻想を描いた世紀末美術について解説した。
26. 「絵画に見る「ファム・ファタル（宿命の女） —愛と死の象徴—」		平成30年10月20日	NHK文化センター 新さっぽろ教室	19世紀末に流行した「ファム・ファタル（宿命の女）」の絵画を解説した。
27. 「世紀末美術の美女・美神たち」		2019年4月～2019年9月 (月1回)	NHK文化センター 新さっぽろ教室	世紀末のイギリスのラファをロ前派の画家たちが描いた女性像を解説した。
28. 「世紀末の夢と幻想」		2019年10月～2020年3月	NHK文化センター 新さっぽろ教室	フランス、ベルギー、ドイツの世紀末象徴主義のおもに絵画について解説した。
29. 世紀末の美術		2019年11月9・10日	放送大学 於 北海道大学	世紀末のヨーロッパ各国の絵画と主にフランスとオーストリアの建築と彫刻を解説した。
30. 「レオナルド・ダ・ヴィンチ没後500年に寄せて—ルネサンス絵画とダ・ヴィンチ—」		2020年1月25日	NHK文化センター 新さっぽろ教室	レオナルド・ダ・ヴィンチが生きたルネサンスという時代、活躍した街や同時代の芸術家、その作品の構図や技法などを解説した。
31. イタリア・ルネサンスの美術		2020年4月～2020年9月	NHK文化センター 札幌教室	ルネサンス絵画の父、ジョットとマザッチオについて解説した。
32. イタリア・ルネサンスの美術		2020年10月～2021年3月	NHK文化センター 札幌教室	初期ルネサンスのボッティチェリ、ピエロ・デラ・フランチェスカ、マンテーニャらについて解説した。
33. イタリア・ルネサンスの美術		2020年11月28・29日	放送大学 於 北海道大学	イタリア・ルネサンスの建築、彫刻、絵画、工芸全般について解説した。
34. 盛期イタリア・ルネサンスの美術		2021年4月～2021年9月	NHK文化センター 札幌教室	盛期イタリア・ルネサンスの三大巨匠の芸術を解説した。
35. バロックの美術		2021年10月16・17日	放送大学 於 北海道大学	17世紀バロックのイタリア、オランダ、スペインなどの建築・彫刻・絵画について解説した。
36. ヴェネツィア・ルネサンスの美術		2021年10月～2022年3月	NHK文化センター 札幌教室	ヴェネツィアの紹介とジョルジョーネやティツィアーノらの絵画について解説した。
37. 幻想と奇想のマニエリスム芸術		2022年4月～2022年9月	NHK文化センター 札幌教室	16世紀後半のヨーロッパ全域に展開したマニエリスム芸術。イタリアのポントルモ、スペインのグレコほか、さまざまな作品を紹介した。
38. 法隆寺の世界・1400年の美 仏教美術を探る		2022年10月15日	NHK文化センター 札幌教室	北海道立近代美術館で開催された「国宝・法隆寺展」の出品作を中心に仏像や工芸品などを分かりやすく解説した。

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(その他) (講演等) 39. ルネサンス美術 40. 初期ルネサンス美術 41 初期ルネサンス美術の魅力 42. 北方ルネサンス美術 43. 盛期ルネサンスの芸術 44. 北方ルネサンス美術の魅力		2022年10月 22・23日 2022年10月～ 2023年3月 2023年4月～ 2023年9月 2023年10月～ 2023年12月 2023年10月 21日・22日 2024年1月～ 2024年3月	放送大学 於 北海道大学 NHK文化センター 札幌教室 NHK文化センター 札幌教室 NHK文化センター 札幌教室 放送大学 於 北海道大学 道新文化センター	ルネサンス美術の数多くの作品のほか、フィレンツェやローマの街、キリスト教についても解説した。 初期イタリア・ルネサンス美術の中から、イタリア絵画の父ジョット、空間意識を刷新したマザッチオ、天使の画家フラ・アンジェリコ、女神を描いたボッティチエリなど、さまざまな作家の作品を取り上げた。 初期のルネサンス美術の中から、ウッチェロ、ペリーニ、カルパッチオらを中心にさまざまな画家の作品を取り上げ、芸術家を育てたフィレンツェやヴェネツィア市の魅力、キリスト教美術の主題なども分かりやすく解説した。 ウェイデン、メムリンクなどの作品を取り上げ、珠玉の工芸・聖遺物箱、「最後の審判」や「聖女伝説」などのキリスト教美術の主題なども分かりやすく解説した。 盛期ルネサンス美術の中から、ダ・ヴィンチ、ミケランジェロ、ラファエロなど、彼らが活躍したローマやフィレンツェなどの街、代表作のみどころを解説した。 ファン・エイクやカルトンの作品の美しい色彩、15世紀前半のファッション、世界遺産・古都ブルージュめぐり、キリスト教美術の主題など、いろいろな角度から、名作のみどころを解説した。
(その他) (司会) 1. Art Conference 司会 (英語) 2. Art Conference 司会 (英語)	単 単	平成2年2月 平成2年11月	Conference on Medieval Art 東京芸術大学会議室 Conference on Renaissance Art 東京芸術大学会議室	(担当部分概要) 各国の留学生を招いて、西洋美術史における中世美術の諸問題について活発な討議を英語で交わした中、司会を行った。「中世の彩色写本画」「教会建築のプラン」「タピスリーと叙述」などのテーマについて各人の発表がなされたあと討論を行った。 (担当部分概要) 各方面の留学生を招いて、西洋美術史におけるルネサンス美術の諸問題について活発な討議を英語で交わした中、司会を行った。「フレスコの技法」「ファン・エイクの油彩画技法」「ロヒール・ファン・デル・ウェイデンの《キリスト降下》」などのテーマについて各人の発表がなされたあと討論を行った。

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(その他) (審査)				
1. 学会誌「美術史」審査（平成21年度査読委員）		平成21年4月～ 平成22年3月	美術史学会	学会誌「美術史」査読。
2. 東京藝術大学大学院紀要審査（平成24年度査読委員）		平成24年4月～ 平成25年3月	東京藝術大学大学院	東京藝術大学大学院紀要「美術史論叢」査読。
3. 東京藝術大学大学院紀要審査（平成25年度査読委員）		平成25年4月～ 平成26年3月	東京藝術大学大学院	東京藝術大学大学院紀要「美術史論叢」査読。
4. 東京藝術大学大学院紀要審査（平成26年度査読委員）		平成26年4月～ 平成27年3月	東京藝術大学大学院	東京藝術大学大学院紀要「美術史論叢」査読。
5. 東京藝術大学大学院紀要審査（平成27年度査読委員）		平成27年4月～ 平成28年3月	東京藝術大学大学院	東京藝術大学大学院紀要「美術史論叢」査読。
6. 東京藝術大学大学院紀要審査（平成28年度査読委員）		平成28年4月～ 平成29年3月	東京藝術大学大学院	東京藝術大学大学院紀要「美術史論叢」査読。
7. 東京藝術大学大学院紀要審査（平成29年度査読委員）		平成29年4月～ 平成30年3月	東京藝術大学大学院	東京藝術大学大学院紀要「美術史論叢」査読。
8. 東京藝術大学大学院紀要審査（平成30年度査読委員）		平成30年4月～ 2019年3月	東京藝術大学大学院	東京藝術大学大学院紀要「美術史論叢」査読。
9. 東京藝術大学大学院紀要審査（平成31年度査読委員）		2019年4月～ 2020年3月	東京藝術大学大学院	東京藝術大学大学院紀要「美術史論叢」査読。
10. 東京藝術大学大学院紀要審査（2020年度審査委員）		2020年4月～ 2021年3月	東京藝術大学大学院	東京藝術大学大学院紀要「美術史論叢」査読。
11. 東京藝術大学大学院紀要審査（2021年度審査委員）		2021年4月～ 2022年3月	東京藝術大学大学院	東京藝術大学大学院紀要「美術史論叢」査読。
12. 東京藝術大学大学院紀要審査（2022年度審査委員）		2022年4月～ 2023年3月	東京藝術大学大学院	東京藝術大学大学院紀要「美術史論叢」査読。